

東北復興 PSW にゆうす

ようやく夏も終わりといったところですが、今年は例年以上に猛暑が続いた地域、「これまでに経験したことのないような大雨」の被害があった地域、皆さまそれぞれに大変な夏を経験されたこととお見舞い申し上げます。少し前の話になりますが、6月初めに「気候変動と災害リスク削減・管理の中のソーシャルワーク」をテーマとしたアジア太平洋ソーシャルワーク会議に参加しました。アジア太平洋地域は自然災害による世界の全被災者数の90%を占めるとも言われ、災害リスクを減らすために、ソーシャルワークが貢献できることは何か。深く考えさせられる国際会議でした。(本部事務局長・木太直人)

「ほっとミーティング in 石川」開催

第49回全国大会・第12回学術集会(石川大会)のプレ企画が終わった後、今大会から新たな試みとして始まったフリースペースの一環として、「ほっとミーティング in 金沢」が開催されました。

ありがとう復興支援



来年の全国大会は埼玉
H26. 6. 19~21 会場
大宮ソニックシティ

18時30分開始に向けて準備を手伝っていると懐かしい顔ぶれが集まってきました。会場は予想通り、当日参加も多く、最終的には51名の参加となりました。柏木会長の挨拶に続き、全員で自己紹介。その後は、何の仕掛けもなく、完全な自由歓談状態に。知らない顔なのに、ネームプレートを見るとお互いに「あっ！〇〇さん！メーリングリスト上でお世話になりました！」などの挨拶があちこちで行われていました。会場には、協会派遣で活動した人のリスト、南相馬市と東松島市、石巻市、女川町などの被災地の写真や使用したレンタカー、宿泊したホテルの部屋、訪れた避難所、活動風景などの写真も掲示され、思い出話に花が咲きました。軽食が用意されていましたが、話に夢中でなかなか減っていきません。

皆さん楽しそうに見えましたが、まだ被災地で活動したあと整理のつかない気持ちをどこかに抱えていて、話しながら涙する人、今でも頻りに被災地を訪れている人、遠方でできることを工夫して行っている人など、あちらこちらで被災地にまつわる話はつきません。誰も壁の花になっている人はいませんでした。支援していて、驚いたこと、辛かったこと、うれしかったこと、感心したこと、勉強になったこと、それらを共有できる仲間の存在は貴重であり、支援を続ける意欲を高めてくれます。

中には、「支援活動はしていないけれど、話しが聞きたかった」という人や被災地からお礼を言いに来たという人、皆に会いたくてこの企画だけのために石川に来たという人、この雑多な顔ぶれが織り成すなんとも言えない雰囲気、ソーシャルワーカーを超えたある種の連帯感を感じました。東日本大震災を機につながった縁ですが、今回参加できなかった人も含め、被災地に特別な思いを持つ人たちが全国各地にいることは、本協会にとっての大きな財産だと思います。

まだまだ本来のあるべき姿に戻るには長い時間が必要な地域があります。顔では笑っても、心穏やかに過ごす日から遠ざかったままの人もあります。我々ソーシャルワーカーは、そのあるべき姿を取り戻すまで、心穏やかに過ごすことができる日まで、つながり続ける存在でありたいと強く願います。

前回紹介しきれなかった四国・中国ブロックの方々からの心温まるメッセージをお届けします。

☆マークは県花のイラストです☆ 愛媛(みかんの花) 香川(オリーブ) 鳥取(二十世紀梨)

☆ 一般社団法人愛媛県精神保健福祉士会



会員 佐々木優子

震災発生から3ヶ月が経過した頃に数日間ですが、宮城県東松島市での支援に入らせていただきました。あれから約1年半が経過して、少しずつ復興している様子をTVなどで見る事しかないので、東北の県名を聞くと今でも関わらせていただいた方のことを思い出します。その時私は何もできなかったのですが、温かく受け入れてくれた方たちに助けられたことがたくさんありました。

愛媛からでもできることをして少しでも復興に役にたてることをしていきたいと思います！

☆ 香川県支部長 詫間佳子



未だ被災地での直接支援のできない自身への言い訳と心苦しさを抑えつつ、これまでの皆様のご苦勞、ご努力と、3年目のこれからに思いを馳せています。復興支援では、今後、新たに起こるであろう課題への支援や、震災前からの問題に再取り組んでいく必要がでてくるでしょう。これからは更に長く険しい道のりが始まるのかもしれない。

皆様が、心から笑える日を迎えられるよう、香川の地より、できることを、できるだけ、しつづけていきたいと考えております。焦らず、譲らず、心折れぬよう、復興への道を歩んでいけるよう、応援しています。

(*。^*) 全国各地から頂戴しております温かなメッセージを皆様と分かち合いたく、なるべく速やかにお伝えして行きたいと思っています。しかしながら、この「東北復興 PSW にゆうす」発行のタイミングと必ずしも一致しない場合があります。ご理解をお願いいたします。



☆鳥取県代議員 松村 健司

まず、トピックスの報告をします。今年3月に鳥取県精神保健福祉士会が鳥取県と災害時協定を締結しました。業務内容は、災害時に県からの要請を受けて、避難所でのこころの相談巡回、在宅者・要援護者訪問、支援者のメンタルケア等となっています。我々精神保健福祉士に対する期待を実感するとともに、身の引き締まる思いです。当県士会会員は、平成23年4月から平成24年10月の間、福島県南相馬市を中心に「心のケアチーム」として延べ22名が多岐にわたる支援を繋いできました。私個人としては、東日本大震災後の5月初旬に、宮城県石巻市に鳥取県医師会の派遣チームの一員として災害医療支援に出向きました。その体験は今でも昨日のこころのように思い返されます。県士会の研修会においては、支援の体験からの講話を聴く機会を設け、また、支援の現状を話題とし、被災地への思いを繋げてきました。今後も募金をはじめとして、私たちに今できることを行っていきたいと考えています。これからも復興を願い続けていきます。

♡～復興支援活動募金報告～♡

206,091円 (H25年4月～H25年8月30日現在)

皆様からお預かりした真心のこもった募金は、復興支援に携わる仲間への支援に役立ててまいります。引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。

☎復興支援本部「ほっと phone」

TEL070-6450-2615 小関本部長代行が

お応えします。お寄せいただいた声は、復興支援に生かしてまいります

☆皆さんからのメッセージを募集します☆

本誌では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本誌へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会ホームページにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません)。お届け先は下記復興支援本部へのFAXもしくはE-mailにてお願いいたします。

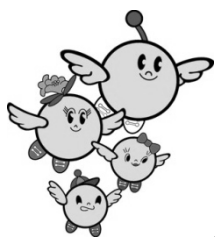
E-mail: office@japsw.or.jp * 題名に「PSW にゆうすについて」とご記入をお願いします。

第7号 2013年9月15日発行

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援本部

〒160-0015 東京都新宿区大塚町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

復興支援本部 URL: <http://www.japsw.or.jp/f-honbu/>



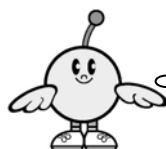
特集 復興支援活動募金使用経過報告 ～福島における活動報告～

福島県内での被災者支援活動について、福島県精神保健福祉士会での活動をご紹介します。この活動では、日本協会や各都道府県支部の皆様方からの義援金を活動の資金として使用させて頂いております。改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

また今回は、福島県内独自の動きである相談支援専門職チーム^{*}についてもご報告いたします。この活動は、福島県の子算が付いている活動です。

(1) 福島県精神保健福祉士会での支援活動（24年度実績）

支援参加者実数	11名
支援参加者のべ数	62名
使用させていただいた金額	478,100円
（災害救助法に準ずる金額での日当、交通費等）	



皆様からの募金が
活動を支えて
います。

1) コーヒータイムへの支援

浪江町から二本松市に避難している就労継続支援B型事業所「コーヒータイム」へ平成24年2月から支援を開始している。コーヒータイムでは、主に当事者研究方式を用いたグループ・ミーティングや個別相談を中心に活動。コーヒータイムは、避難先で事業所の認定を新たに受け、避難元の利用者だけではなく、地元の利用者も多数受け入れるなど、同地の社会資源の一つとしての存在感を示すようになってきている。時間の経過に比例して支援活動も定着してきているが、事業所の意向を丁寧に確認しながら、今後の支援のあり方について検討していくことにしている。

福島市、二本松市それぞれに
福島県PSW協会の会員が
定期訪問しています。



1) コーヒータイムでのグループミーティング

2) あおばへの支援

双葉町から福島市に避難している事業所「あおば」にも訪問支援を実施している。あおばは、他事業所の一角を間借りする形で、事業を再開。しかし、スタッフ1名、登録メンバーは3名であり、活動を再開はしたが、事業としては成り立たず、運営資金などは全国から寄せられた義援金などで賄ってきた状況で、現在の位置付けは無認可（今年度から双葉町から一部助成金の予算付けがあったとのこと）。また、今後の活動拠点も福島市にするかいわき市にするのか決まっていないなど、不確定な状況が続いている。当会としては、スタッフやメンバーの孤立・疲弊に留意しながら、支援を継続し、柔軟な対応が取れるようにしていきたいと考えている。



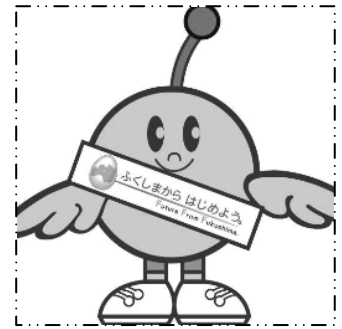
2) あおばにてスタッフ、メンバーと

3) 飯舘村への支援

全村避難を強いられた飯舘村で行っている「よろず健康相談事業」に対し、村保健師と連携の上、当会会員をこれまで3回派遣。また、過重業務、複雑化する問題への対応、避難生活を強いられた私生活上の問題等から村役場職員の疲弊感が危惧されるとの相談を受け、主に精神衛生上の問題については、専門機関への紹介と調整を行った。

(2) 福島県相談支援専門職チーム※での支援活動

※福島県の委託を受けて被災者支援にあたっている県内6つの専門職団体（介護支援専門員協会、医療ソーシャルワーカー協会、社会福祉士会、作業療法士会、理学療法士会、精神保健福祉士会）のチームの総称



福島のマスコット「キビタン」

1) 平成24年度 活動集計

福島県精神保健福祉士会での登録者数40名（平成25年2月末現在）
調整会議（県全体、各方部含む） 39回
健康教室 40回 地域支援84回 生活相談82回

2) 活動内容について

平成25年度も23、24年度同様に福島県の予算が付き、6団体で活動を継続。各方部での実情に合わせて支援を行っている。

6月22日（土）に南相馬市保健師等の全面協力の下、6団体メンバーによる南相馬市応急仮設住宅一斉スクリーニング調査を行った。（対象者210件中不在等あり、168件実施。）

PSWとしては県内各地で、サポートセンター・ソーシャルワーカー室での活動を継続中。

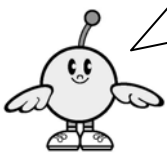
情報として、福島県が被災で県外へ避難した500人ほどの入院患者を徐々に県内へ呼び戻そうと県立矢吹病院が窓口となって調整をはじめ動きがある。



サポートセンターでの活動



1次避難所での体操教室



福島県相談支援専門職チーム2年間の活動記録について、日本協会を通じて各都道府県支部にお送りする準備を進めております。お手元に届きましたらそちらもご覧頂ければと思います。

今回ご紹介した活動以外にもそれぞれの会員が各職場や個人的なボランティア等を通じて被災された方、避難を余儀なくされた方などへの支援活動にあたっています。仕事外の支援活動に参加できる方は多くはない状況ですが、会員の負担が集中しすぎぬよう理事会でも対応を検討していきたいと思っております。

また福島県精神保健福祉士会では、今後も長期に続く支援活動をより確かなものとしていくため、今年度から支援活動に使用させていただく募金活動を行って参ります。まずは9月21日～22日に福島市で開催する基幹研修Ⅱ・Ⅲで行いたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

～募金は他にもこんなことに活用されています～

- ・被災現地 PSW の孤立防止支援「ほっとミーティング」
- ・東北復興 PSW にゆうすの発行（本誌です）
- ・石川県金沢市における第49回全国大会での被災地作業所製品物販への協力